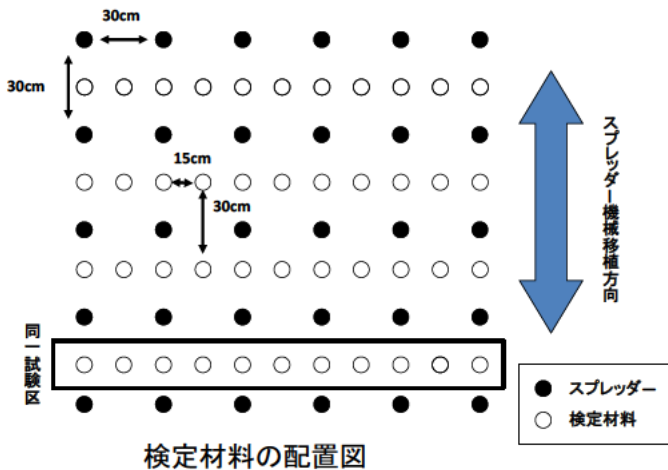


イネごま葉枯病抵抗性の高精度評価法

- 三重県において「みえのゆめ」を中心に発生が見られるイネごま葉枯病について、抵抗性品種を開発するために必要な「ごま葉枯病圃場抵抗性検定法」を開発しました。
- ごま葉枯病を発病させた「みえのゆめ」をスプレッター（伝染源）として均一に配置した 5 月下旬移植の検定圃場において、移植後 110 日頃に「ごま葉枯病発病程度調査基準」を用いて発病調査をすることで、検定材料のごま葉枯病発病程度を評価できます。
- 検定圃場には検定材料に適合した熟期の抵抗性基準品種を‘強’～‘弱’の範囲で配置し、検定材料のごま葉枯病抵抗性はそれら基準品種の発病程度を参考に評価します。



ごま葉枯病発病程度調査基準

階級値	病斑の様態	葉身の病斑面積率
0	なし	0
1	黒褐点状の病斑	1%未満
2	黒褐点状の病斑	1～3%
3	病斑の一部が進展性病斑	3～5%
4	病斑の1/3程度が進展性病斑	5～10%
5	病斑の半分程度が進展性病斑	10～15%
6	病斑の2/3程度が進展性病斑	15～20%
7	病斑の3/4程度が進展性病斑	20～30%
8	大半の病斑が進展性病斑	30～50%
9	大半の病斑が進展性病斑	50%以上

¹⁾ 進展性病斑は、「病斑の中心部分が灰白色に抜けている、あるいは、病斑の幅がイネ葉身の一次支脈幅を超えている病斑」。

熟期別ごま葉枯病圃場抵抗性基準品種

熟期	抵抗性程度				
	強 (3.0以下)	やや強 (3.0～4.0)	中 (4.0～5.0)	やや弱 (5.0～6.0)	弱 (6.0より大きい)
極早生		アキヒカリ		イナバワセ ナツヒカリ	農林1号
早生	CH45		トヨニシキ 関東51号 ササニシキ	コシヒカリ	
中生	IR58 Dawn ツユアケ	金南風		日本晴 Kasalath	みえのゆめ
晩生	Tadukan 杜稻	山田錦 あそみのり	にこまる ヒノヒカリ		

¹⁾ 抵抗性程度の括弧内数字は発病程度階級値を示す。

- 本検定法を利用することで、ごま葉枯病抵抗性品種を選抜・開発することができます。

お問い合わせ先	農産研究課	松本 憲悟	電話 0598-42-6359
参考になる資料	三重農研HP: http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm 松本ら(2015) 育種学研究 第17巻(別冊1号) 33		